

## 労働に関する岡山県民の意識

急速に変化する社会情勢やアベノミクスの女性支援策などに伴い、岡山の労働環境、労働価値観の実態はどうなっているのでしょうか。

### 労働気質

岡山県民の71.3%は「働くこと自体が好き」。

75.9%は「今の仕事が好き」。

69.4%が転職経験者。

そもそもの「働く」という行為について、「好き」と回答した人は21.6%、「どちらかという好き」と回答した人は49.7%でした。現在就いている仕事については「好き」が21.6%、「どちらかという好き」が54.3%で、労働自体が好きか否かに比べ「好き」と回答する人が増えています。働くことは好きではないが今の仕事は好き、という人がいるようです。計らずも好きなものに巡り合ってしまった、のかもしれない。

### 労働実態

残業は「自発的が多い」58.9%。

有給休暇「消化していない」30.7%。

半数が満足度80%以上。

現在就いている仕事に対する満足度で最も多かったのは「100%満足」という回答でした。次いで「90%」「80%」と続きます。高い満足度の要因は、「良い企業が多い」というような企業側にあるのか、それとも「多くを望まない」「楽しむことが上手」というような個人の性質に因るものなのか、あるいはその両方であるとも考えられます。

### ワーク・ライフ・バランス

仕事とプライベートのバランス『5.1(オン)』対『4.9(オフ)』。

大事にしたいのは「仕事よりもプライベート」59.6%。

配偶者には「仕事より家庭を優先して欲しい」52.3%。

妻の就職「賛成」89.5%。うち3割は「条件付き」での賛成。

### ダイバーシティ

夫婦間の違い「良い影響」39.2%。

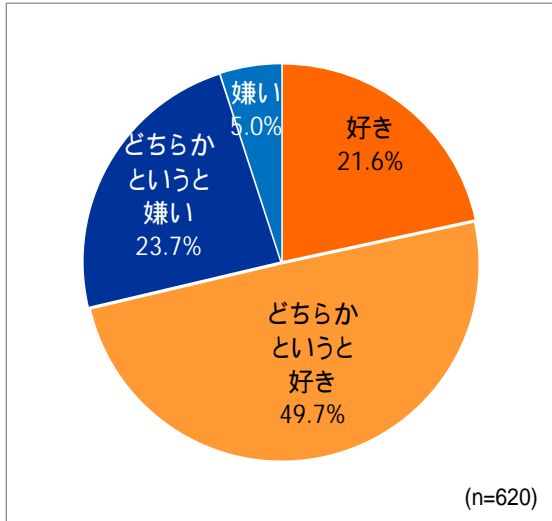
ストレス要因「仕事の間人間関係」34.1%、「仕事の労働環境」32.0%。

好きな人との関係では「違い」を乗り越え、良い影響を与え合っています。仕事場、仕事の間人間関係では同じとはいかず、大きなストレスになっているようです。

調査概要 調査時期 : 2014年9月4日(木)~2014年9月24日(水)  
調査対象 : 岡山県在住の男女620名  
調査方法 : 自社アンケートパネル『Vinsight(ピンサイト)』によるインターネット調査  
回答者プロフィール : 男性32.4%、女性67.6% 未婚29.7、既婚70.3%  
20代以下10.2%、30代32.6%、40代30.8%、50代以上26.5%  
岡山市52.7%、倉敷市24.4%、その他の市町村22.9%

## 労働気質

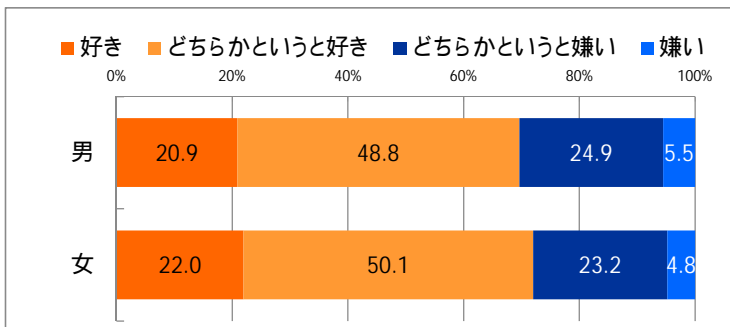
### Q. 仕事内容に関わらず、「働くこと」は好きですか？



### 岡山県民の7割は「働くことは好き」。

働き者な日本国民ですが、岡山県民はどのようなのでしょうか？「働く」という行為についての好き嫌いをたずねてみました。

「好き」が21.6%、「どちらかという好き」が49.7%を占めています。合わせると71.3%。



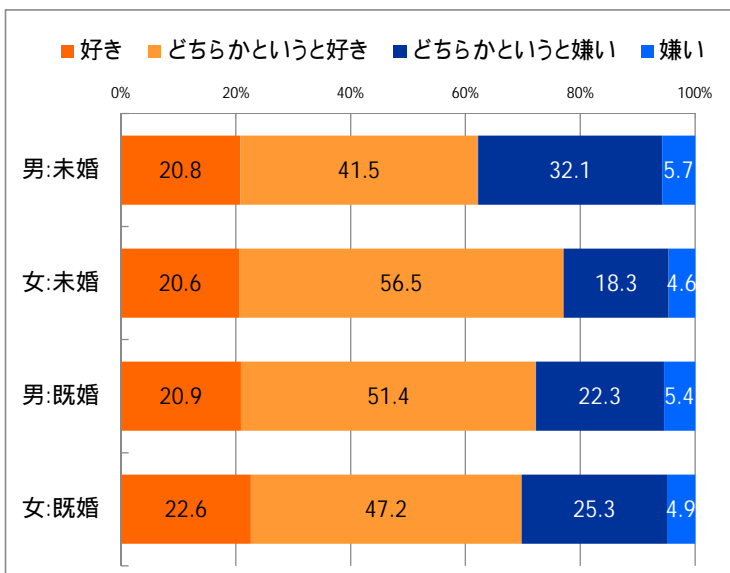
男女別でみると、若干女性のほうが働き者気質が多めです。

男女別に加え未婚既婚別で分解すると、未婚男女に特徴が見られます。未婚男性は他層に比べ「どちらかという好き」が少なく、「どちらかという嫌い」が多く、「他層に比べ働くのは好きではない」という結果となっています。

対して未婚女性は他層に比べ「どちらかという好き」が多く「どちらかという嫌い」が少なくなっており、「他層に比べ働くのが好き」という結果となっています。

「好き」だけの結果をみると、どの層にも2割の労働好きが存在しています。

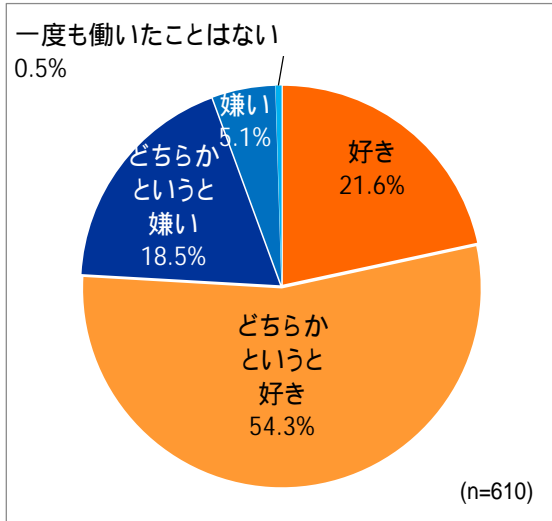
勤労精神はもちろんのこと、汗を流すことが好き、奉仕精神が強い、負けず嫌い等、様々な理由が考えられます。



表、図の値は、四捨五入による集計上の誤差が生じることがあります。

## 7割強は「今の仕事が好き」。

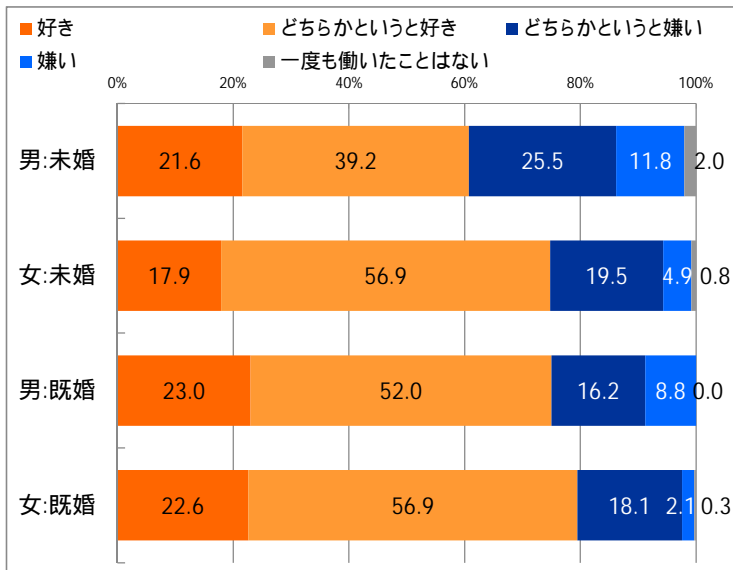
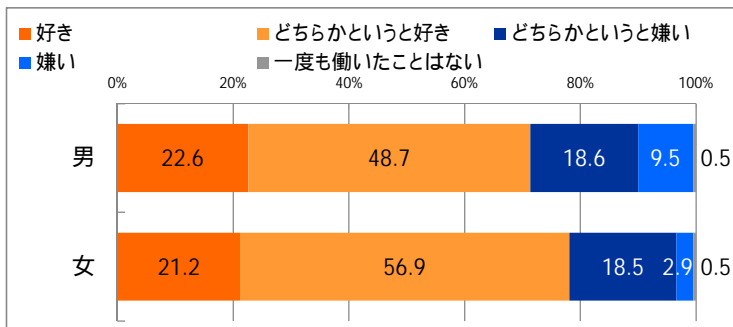
### Q. 現在就いているその仕事が好きですか？



「学生」除く

現在就いている仕事についてはどうなのでしょう？専業主婦の方は家事・育児などについて、無職の方は直近で働いていた仕事について回答してもらいました。

「好き」が21.6%、「どちらかという好き」が54.3%を占めました。合わせると75.9%。前の質問の「労働自体が好きか否か？」に比べ、「好き」な人が増えています。働くことは好きではないが、今の仕事は好き、という人がいると考えられます。好きになれる仕事にめぐり合うと、労働への拒絶感・抵抗感が薄れるのかもしれない。また、逆も存在するでしょう。



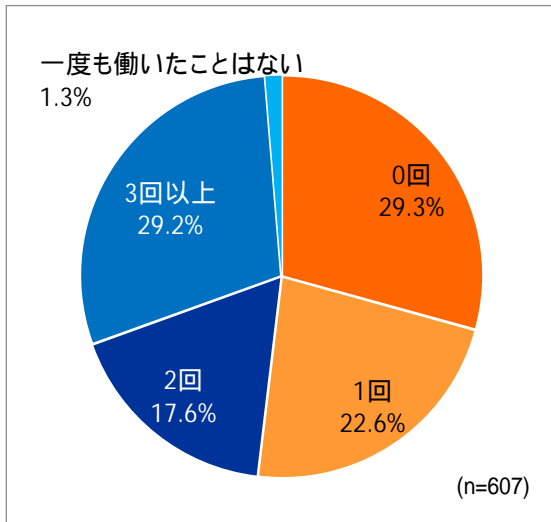
男女別でみると大きな差がみられ、女性のほうが現在の仕事への愛情・楽しさを多く持っています。

男女別×未既婚別でみると、未婚男性に目立った特徴がみられます。未婚男性は他層に比べ「どちらかという好き」が少なく「どちらかという嫌い」が多く、「他層に比べ今の仕事は好きではない」という結果となっています。

対して最も愛情・楽しさを示したのは既婚女性です。専業主婦にも回答してもらっているため、家庭への深い愛情が影響していることも考えられましたが、その影響は確認できませんでした。この層はパートタイムで働く人が多く、短時間労働でも正社員でなかったとしても、楽しみながら愛情を持って働くことができている、という実態を示唆している可能性があります。

ただ、生活保持の義務感や勤務形態・勤務環境などによるプレッシャー感の違いなど、結果には複数の変数が影響していると考えられます。

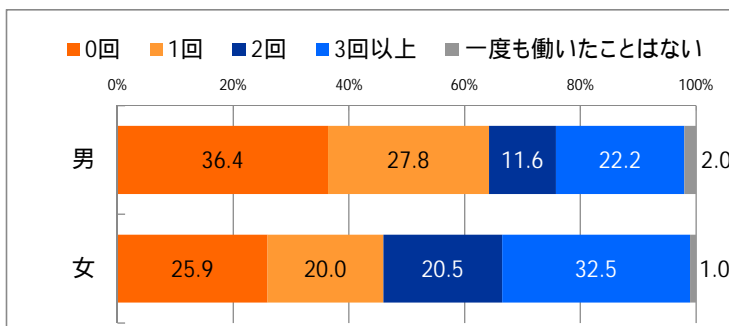
Q. 転職の経験はありますか？ 「学生」除く



7割が転職経験者。

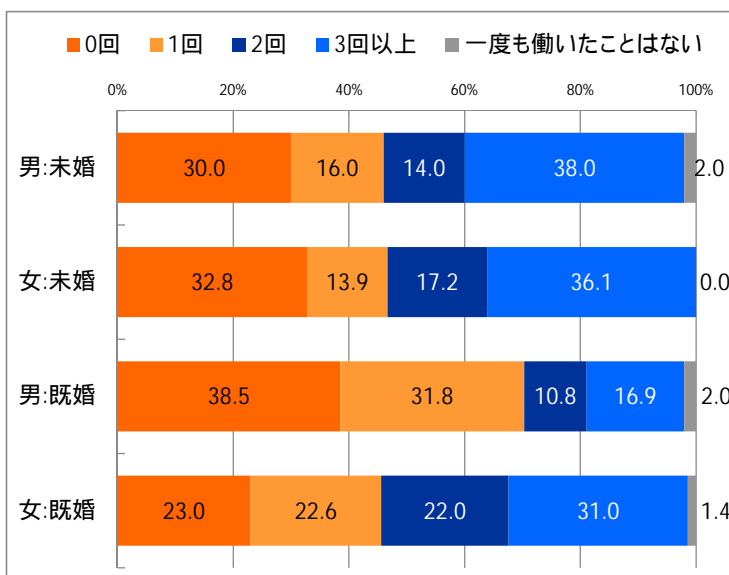
転職の経験、回数をたずねてみました。  
「お勤め 主婦(主夫)業」は「1回」とカウントしない。  
「0回」29.3%、「1回」22.6%、「3回以上」29.2%など、分散しています。

岡山の労働市場の流動性、就職先・働き口の多さ、労働形態の多様性、チャレンジのしやすさ、個人の労働資質、チャレンジ精神、柔軟度など、様々なことがうかがえます。



男女別では、女性のほうが転職回数が多くなっています。結婚、出産など、男性に比べライフスタイルの変化が大きいことが要因と考えられます。

男女別×未既婚別で分解すると、既婚男性に注目できます。



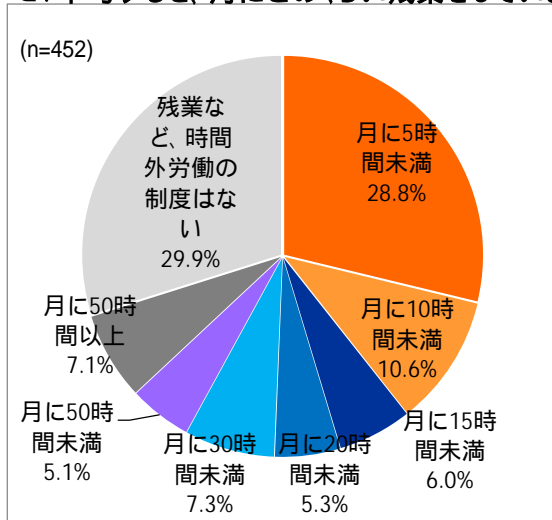
既婚男性は「0回」と回答する人が最も多く4割を占めています。結婚後は独身時代よりも安定を望む気持ちが強まるでしょうから、おそらく「0回」のまま定年まで勤め上げると考えられます。次いで多いのが「1回」で3割を占めています。既婚男性の職業をみると「公務員」「経営者・役員」の比率が高くなっており、このような職業の男性の結婚率は高めという見方もできます。

他の層は最も多いのが「3回以上」、次いで「0回」という点が共通しています。

表、図の値は、四捨五入による集計上の誤差が生じることがあります。

## 労働実態

Q. 平均すると、月にどのくらい残業をしていますか？

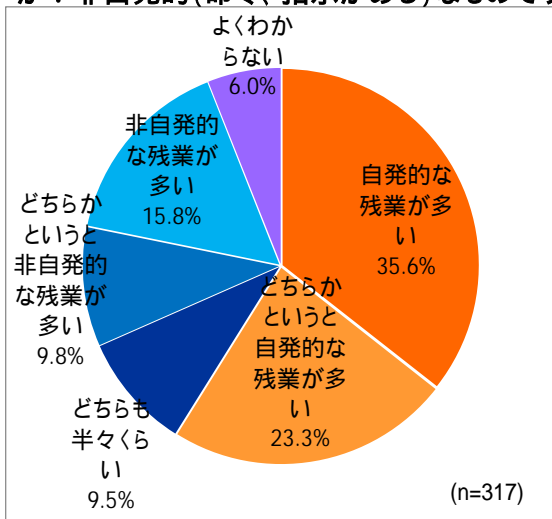


**月平均残業時間は11.3時間**

岡山の労働環境基準には特徴があるのでしょうか。

残業をしている人は7割。月平均の残業時間は「5時間未満」が最も多く28.8%、次いで「10時間未満」が10.6%。これらを階級値を設定し（5時間未満は2.5）、また「50時間以上」は60時間と仮定し平均値を算出すると、月平均残業時間は11.3時間となりました。厚労省勤労統計調査による全国の常用労働者平均月間所定外労働時間数は12.2時間ですから、パートタイムや

Q. その残業は自発的(自ら進んで行く)なものですか？非自発的(命令、指示がある)なものですか？



契約社員等を含む本調査の結果は全国平均より若干多いかもしれません。

残業が発生する要因は多様で、その対応も各企業によって様々です。また、本人の受け止め方次第、という論調もあり難しい問題です。

残業をしていると回答した人に、その種類を2択で聞いてみました。「自発的が多い」と回答した人は58.9%、「非自発的が多い」と回答した人は25.6%で、圧倒的に自発的な残業が多いという結果が出ました。最初の質問で「労働自体が好き」と回答した人は21.6%でしたが、それに比べると非常に多い。「自発的」という、その内容はどのようなものなのでしょうか。

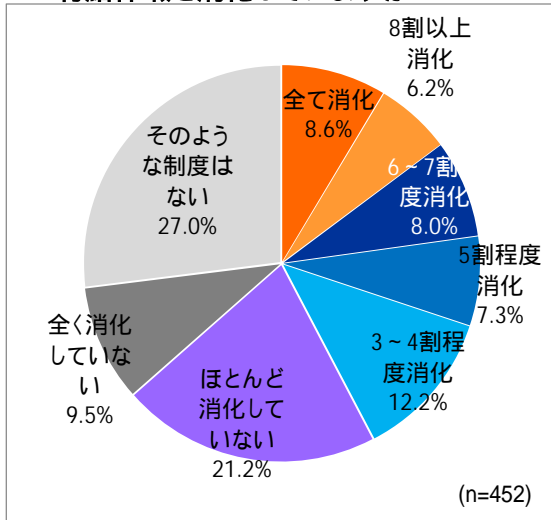
### 自発的に残業する理由

忙しいときに、帰る気にはならない(26歳 女 商社関係) そうしないと成果を挙げられないから、評価されないから(30歳 男 製造業) 仕事の能力を上げるため(33歳 男 サービス業) 仕事が多く、自発的に進めておかないと終わらないから(39歳 男 製造業) 翌日に持ち越すのがイヤだから(36歳 女 金融・保険関係) 子供のことなどで休みをもらうことも多いので、その分、仕事の進捗や評価を気にして(42歳 男 製造業) 自分が残業してでも早く仕事を終わらせれば、よい結果がでるしトラブルが起こっても早めに対応できるから(46歳 女 製造業) 残業が必要な仕事量がある上、人員の増強が全くされない(48歳 男 製造業) 自分しかする人間がない、仕事が多まって、自分の首を絞める。(52歳 男 製造業) 時間のことなど気にして仕事をしていては、良い成果は出せないと思う。(61歳 男 広告・マスコミ・市場調査関係) 管理職であり、部下の面倒をみた後自分の仕事を行うため時間を要する。思考する時間は静かな時が良い(66歳 男 製造業)

### 非自発的に残業する理由

周りの仕事が遅い(25歳 男 サービス業) 時間外に客がきたり電話がかかってきたりして対応せざるをえない(31歳 女 金融・保険関係) 兼務しているから(31歳 女 製造業) 時間外に仕事はしている(32歳 男 広告・マスコミ・市場調査関係) 当番制で残業があるから(35歳 女 サービス業) 急ぎの用件だから(38歳 女 サービス業) 基本的に定時に終了する業務内容ではないから(39歳 男 その他) 会社からの指定(40歳 男 製造業) 自分の課だけなぜか人が少ない(41歳 女 建築・不動産・住宅関係) やるべきことがあるから(43歳 男 通信関係) 残業が普通だと考えられているから(47歳 女 サービス業) 管理職であるため(48歳 男 製造業) 上司にお願いされるから(48歳 女 製造業) 仕事量が半端ないから(49歳 男 官公庁・財団法人・社団法人関係) 性格的に拒否できない方なので(49歳 男 運送・物流関係) 仕事のスケジュールを守るため(59歳 男 製造業) 勤務時間に残業が組み込まれている(63歳 男 通信関係)

Q. 有給休暇を消化していますか？



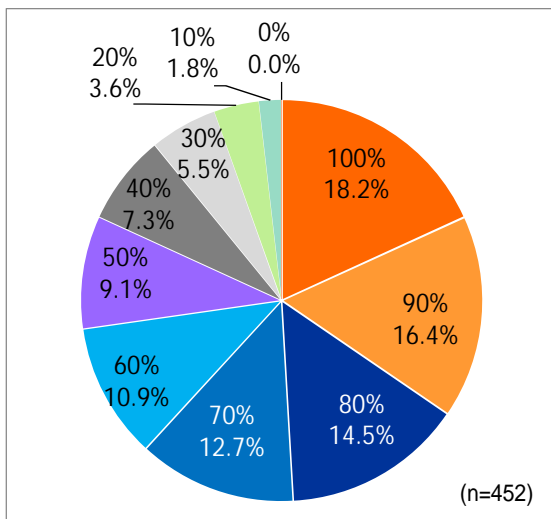
有給休暇、3割が「消化していない」

有給休暇制度のある企業で働いている人は7割。残り3割の企業には制度がないということです。

「全て消化している」「8割以上消化している」が合わせて14.8%、対して「全く消化していない」「ほとんど消化していない」が合わせて30.7%となっています。消化していない人が圧倒的に多くなっています。制度としては存在しているにも関わらず、きちんと実行されていない・実行していない。なぜなのでしょうか。

労働満足度

Q. 現在の仕事の満足度はどのくらいですか？



半数が満足度80%以上。

現在就いている仕事に対する満足度を聞いてみました。

最も多かったのは100%、次いで90%、次いで80%！ 80%以上と回答する人が半数を占める結果となりました。大変高い満足度です。要因は何でしょうか。

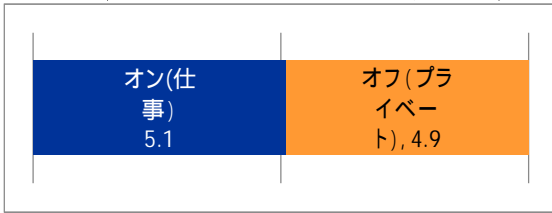
企業側に要因があり、岡山には良い企業が多いのか？ マッチングがうまくいっているのか？

あるいは、個人側に要因があり、満足度の基準値が控えめなのか、柔軟性が高く何事においても楽しむことが上手いのか。

また、残業時間や有給休暇の取得状況なども影響していると考えられます。

## ワーク・ライフ・バランス

Q. 現在のあなたの「オン(仕事)」と「オフ(プライベート)」のバランスは何対何ですか？現在の気持ち、力の入れ具合をお教えてください。



『5.1(オン)』:『4.9(オフ)』。

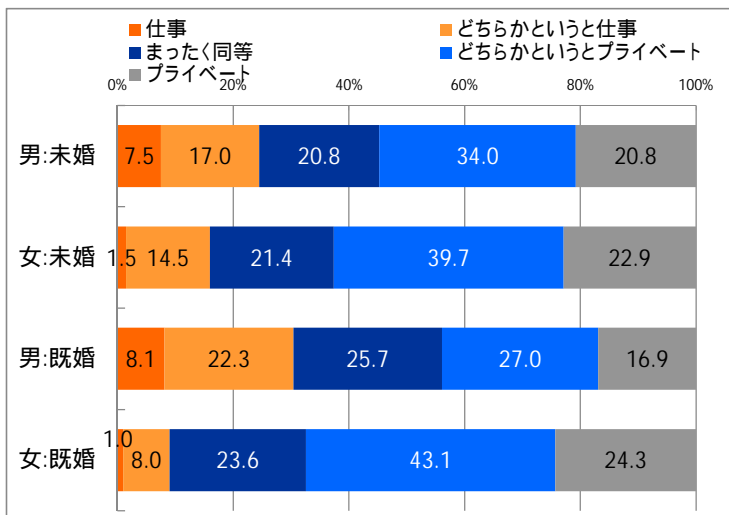
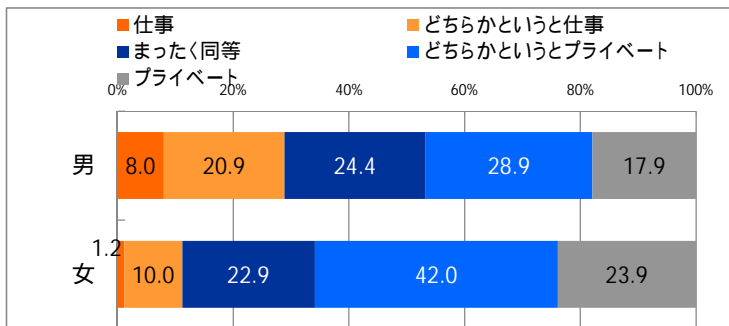
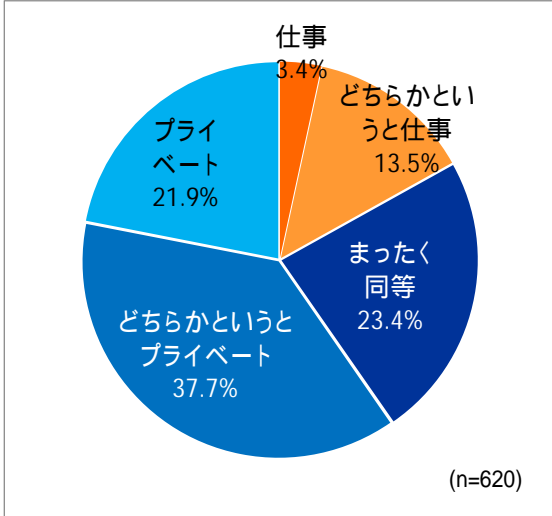
仕事とプライベートのバランスはどうなっているのでしょうか。10段階で回答してもらいました。

オン(仕事)が『5.1』、オフ(プライベート)が『4.9』という結果です。わずかに仕事のほうに比重がありますが、どちらも大切にしているようです。

では、その実態と同じく、価値基準においても”選択しがたいくらい仕事もプライベートも同等”と考えているのでしょうか？どちらを大事に考えているのか聞いてみました。

「仕事」が16.9%、「まったく同等」が23.4%、「プライベート」が59.6%という結果です。「プライベート」に価値をおく人が6割を占めています。

Q. 仕事とプライベート、どちらが大事ですか？

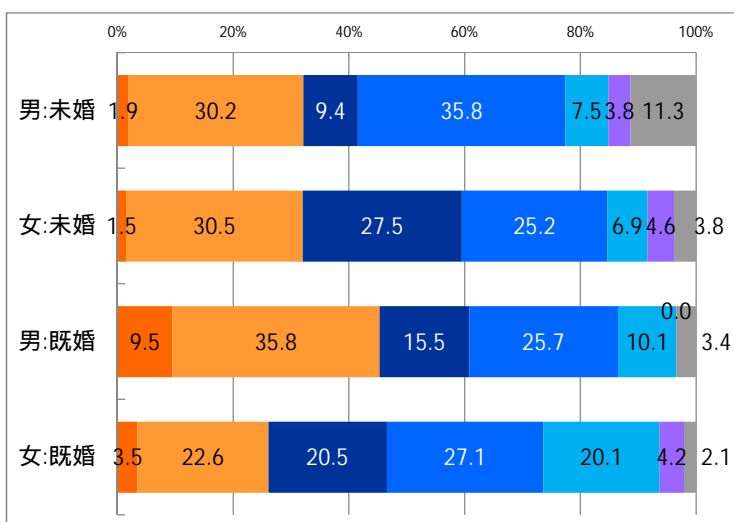
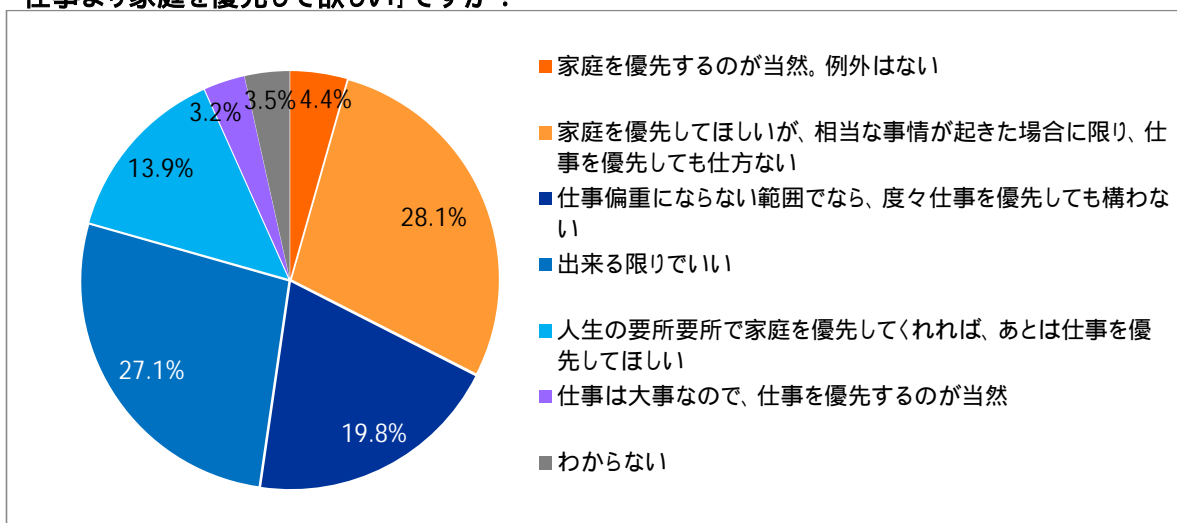


男女別では差が見られます。男性は「仕事」と回答した人が28.9%、「まったく同等」が24.4%、「プライベート」が46.8%で、半数をプライベート派が占めています。女性は「仕事」と回答した人が11.2%、「まったく同等」が22.9%、「プライベート」が65.9%で、6割強がプライベート派でした。

さらに未婚既婚別で分解してみましたが、男女共に既婚別による差はあまり見られません。

この価値基準というのは、結婚してから変化するというものではなく、この価値基準を維持・共有できる相手と結婚するのかもしれない。結婚でさえそうであるならば、会社の事情や業務内容等々によって、この価値基準が変化することはないのではないのでしょうか。

Q. 配偶者が仕事をしている(フルタイム、パートタイム、自営等に関わらず)場合、「配偶者には仕事より家庭を優先して欲しい」ですか？



**「配偶者には家庭を優先してほしい」5割。**

「家庭を大切にする」という前提の下、それはどの程度のことを指しているのでしょうか。子供の有無によっても変わってくるでしょう。また、子供もそういった常識や価値観で育つと考えられます。

男女別・未既婚別による差が見られ、それぞれが違った特徴を見せています。

未婚男性は配偶者に家庭優先を望む人が多いものの、「出来る限りでいい」が他層に比べ非常に多く3割を占めています。こだわらないのか、重視していないのか、要求したくないのか。

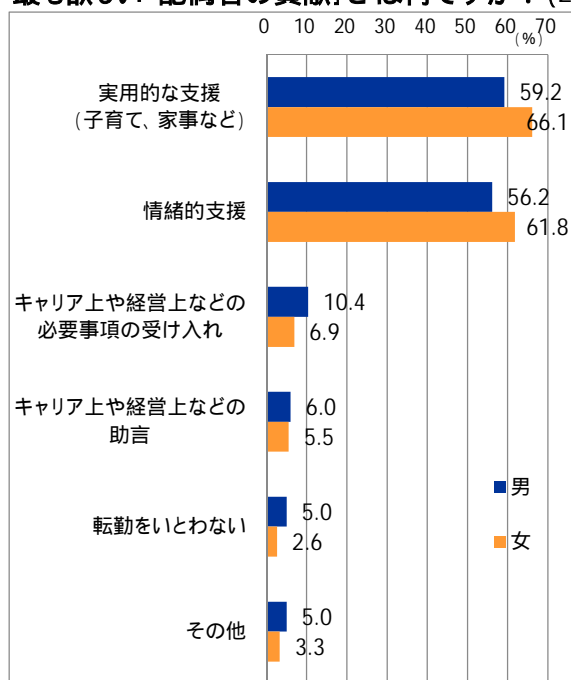
既婚男性は「家庭を優先するのが当然。例外はない」や「家庭を優先してほしいが、相当な事情が起きた場合に限り、仕事を優先しても仕方ない」が非常に多く半数弱を占めており、明確に家庭優先を望んでいます。

そして未婚女性は「仕事偏重にならない範囲でなら、度々仕事を優先しても構わない」が他層に比べ多く、配偶者の仕事に理解を示しつつも家庭優先という基準は決して譲らない様子が見えます。

既婚女性は回答がよく分散しており、様々な生活スタイルがあることが想像されます。また「人生の要所要所で家庭を優先してくれるれば、あとは仕事を優先してほしい」が非常に多く、配偶者の仕事に理解を示し、支える姿が見えてきます。



Q. "仕事と家庭の関係"を考えたとき、あなたが最も欲しい「配偶者の貢献」とは何ですか？(2つ以内)



男女共に「配偶者からは「実用的な支援」と「情緒的支援」が欲しい」6割。

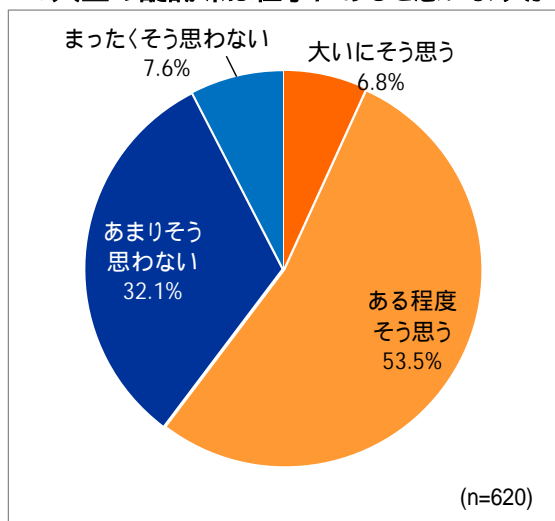
最も欲しい「配偶者の貢献」とは？

男女共に6割が「実用的な支援」と「情緒的な支援」の両方が欲しいと回答しています。

「実用的な支援」とは子育て、介護、家事など、実働を伴うもので、配偶者やパートナーとの間ではいわゆる役割分担ということになります。男女共に互いにサポートして欲しい=分担して欲しいと考えていることがわかります。

そしてそれと同程度に「情緒的支援」が欲しいと考えています。信頼、激励、リラックスなど、一番の相談役・サポーターを望んでいるようです。

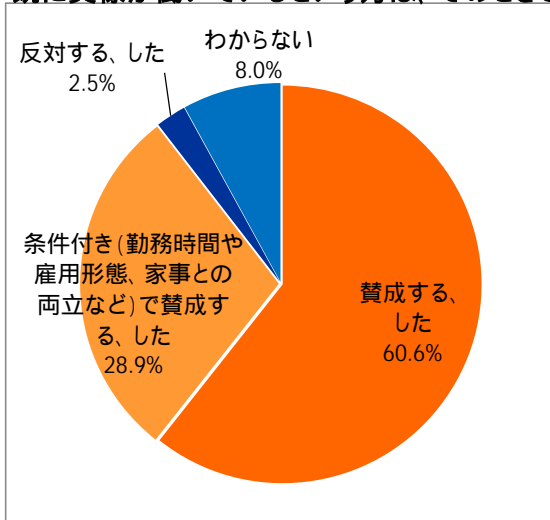
Q. 人生の醍醐味は仕事にあると思いますか？



表、図の値は、四捨五入による集計上の誤差が生じることがあります。

## 男性の意識

Q. 結婚後、奥様が働きたい、仕事を継続したいと言った場合、どうしますか？  
既に奥様が働いているという方は、そのときどうしましたか？

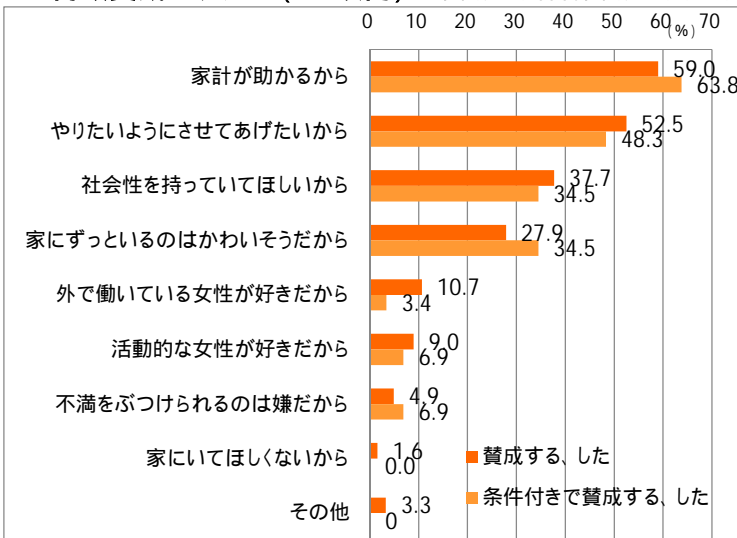


### 妻の就職へは「条件付で賛成」3割。

男性のみに、結婚後の妻の就職についてたずねました。賛成には「まったくの賛成」と「条件付の賛成」の2パターンを設けました。

「賛成する、した」「条件付で賛成する、した」は合わせて89.5%、ほとんどの男性が賛成です。しかし、うち3割は勤務時間や雇用形態、家事との両立など、条件付きでの賛成です。

Q. 何故賛成ですか？(3つ以内) 「賛成」「条件付賛成」の人のみ

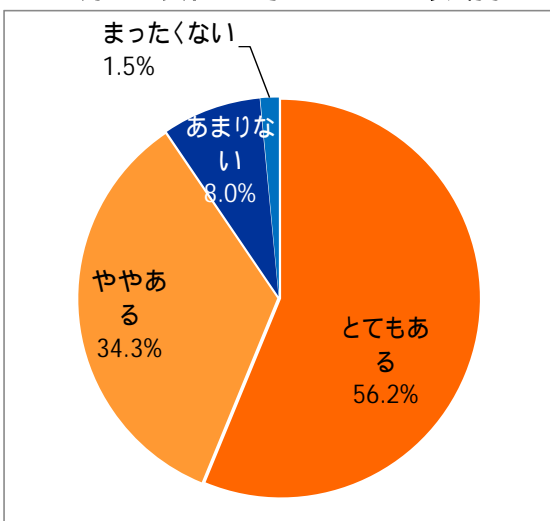


### 妻の就職を賛成する理由は「家計が助かるから」6割。

妻の就職に「賛成」と回答した男性に、その理由をたずねました。

最も多かったのは「家計が助かるから」6割、次いで「やりたいようにさせてあげたいから」5割と、対照的な理由が並んでます。ただ、「妻に家計を任せている」という場合には、この2つの理由は同一の意味を帯びてきます。

Q. 「好きな女性」を守りたいという気持ちがありますか？



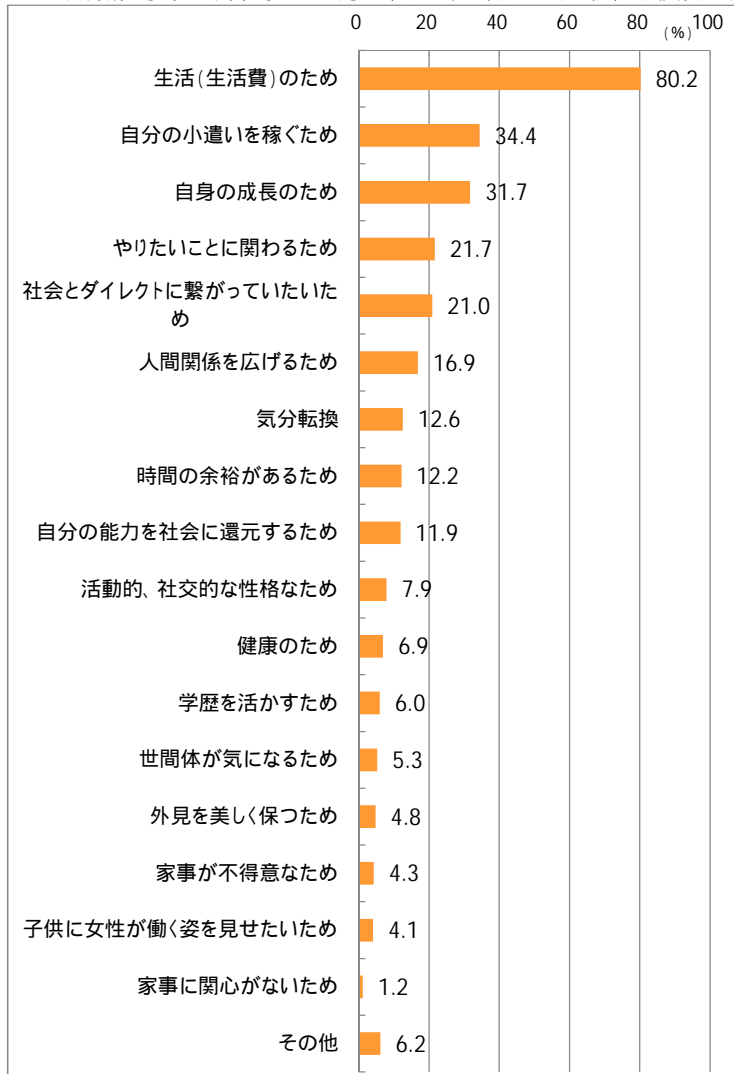
「守る」の定義は自由(体力的、経済的、庇護、感覚的、何でも結構)という条件で、「好きな女性」を守りたいという気持ちがありますか？と聞いてみました。

「とてもある」56.2%、「ややある」が34.3%、合わせて90.5%という結果です。

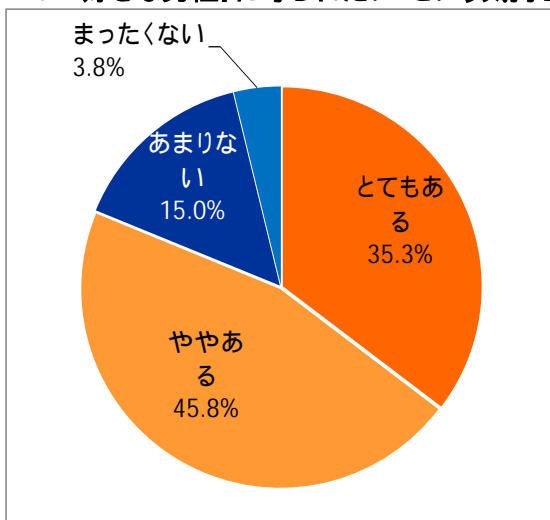
## 女性の意識

### Q. 女性にうかがいます。なぜ働いているのですか？(いくつでも)

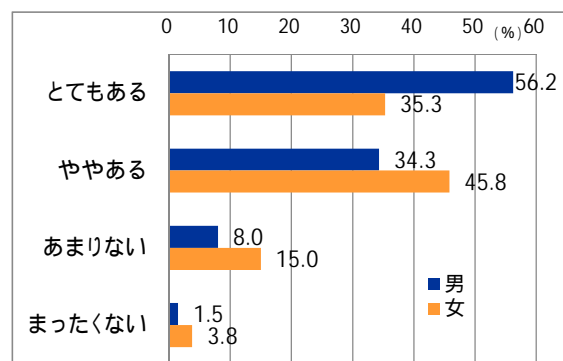
無職、専業主婦、学生の方は、過去の働いた経験、今後働き始める理由を想定してお答えください。



### Q. "好きな男性"に守られたいという気持ちがありますか？

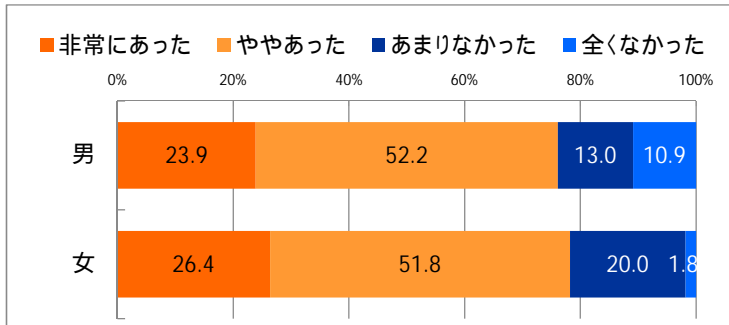


同じ条件で同じ質問を女性にもしてみました。男性と比べると、女性のほうが淡泊であるようです。

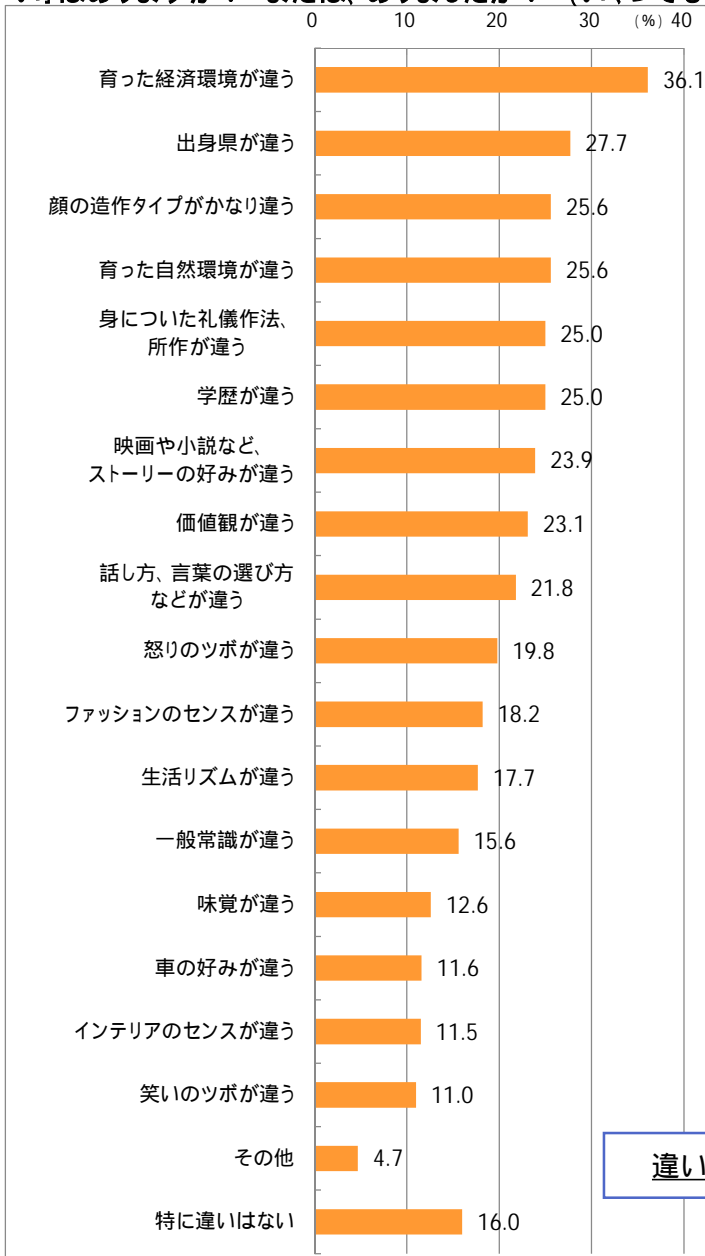


## 差異の受け入れ～プライベート

Q. 文化やルールなど、それまで住んでいたところと岡山県では違いはありましたか？



Q. 配偶者、恋人についてお伺いします。あなたとの間に「違い」はありますか？ または、ありましたか？ (いくつでも)



違いの数 平均4.2

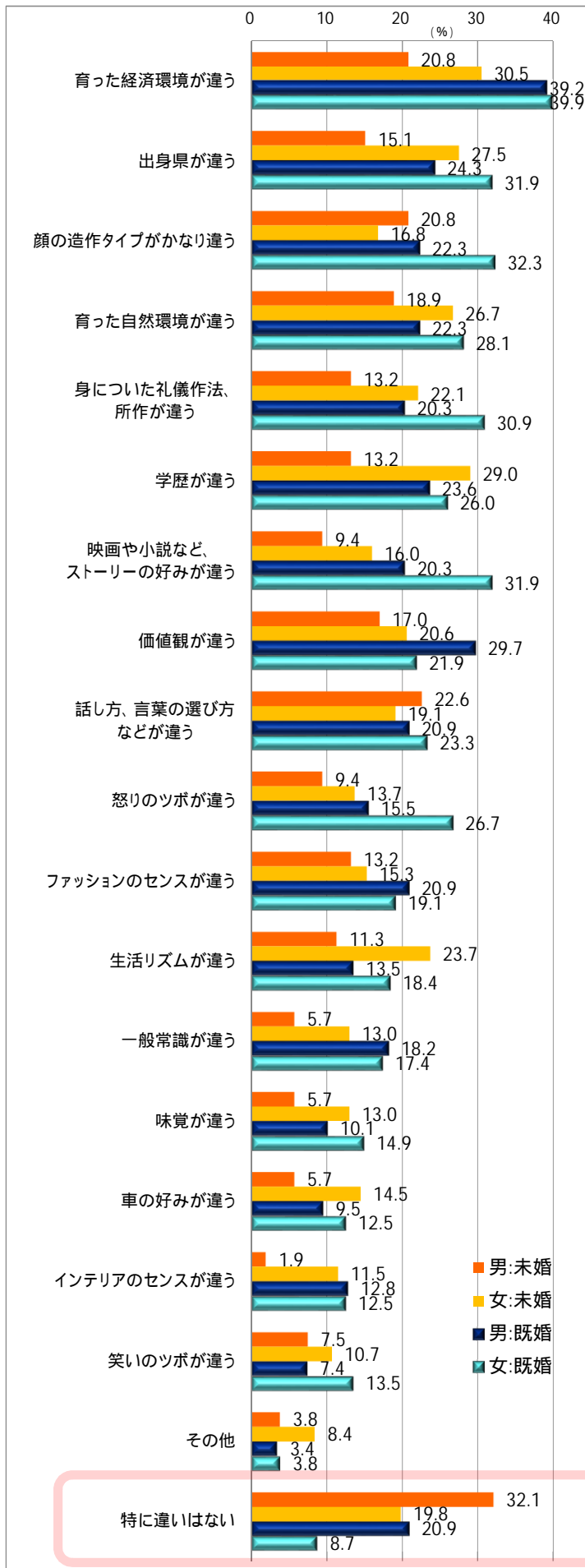
ダイバーシティの基本概念は個々人の「違い」を尊重し受け入れ、「違い」に価値を見出すことです。

さて、仕事上では困難なことで、好きな人との関係では「違い」を乗り越えているのではないのでしょうか？仕事よりも細かな違いが目につくはずです。

最も多かったのは「育った経済環境」36.1%の違いでした。お金の価値観が違うのだと思いますが、どう解決しているのでしょうか。解決できず、女性は働くこととなっている(前頁「働く理由」参照)のでしょうか。

2位は「出身県」27.7%。4人に1人は他県の人と結婚したりお付き合いしたりしているようです。多くの違いがありそうです。

3位～6位はほぼ同率で「顔の造作タイプ」「育った自然環境」「礼儀作法、所作」「学歴」が並んでいます。



男女別×未既婚別でみると、女性のほうが大幅に違いを感じていることがわかります。特に、既婚女性は生活を共にしているせいなのか、あるいは違いがあっても結婚はするのか、未婚女性よりも一段と違いを感じています。

未婚女性が未婚男性よりも上回っているのは17項目中15項目。ほとんどです。「違っていても好き」「違っていてもお付き合いできる」「違いが刺激的」といったところでしょうか。

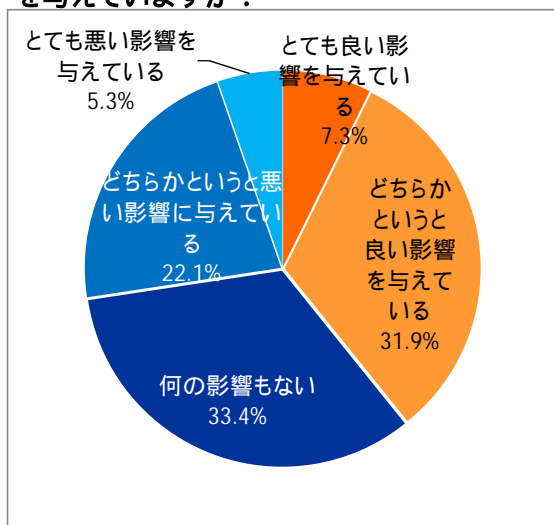
一方、未婚男性が未婚女性よりも上回っているのは「顔の造作タイプ」「話し言葉」の2項目のみ。ここだけは気になるポイントなのかもしれません。

既婚者を見ると、既婚女性が既婚男性を上回っているのは17項目中13項目。ほとんどです。

既婚男性が既婚女性よりも上回っているのは「価値観」「ファッションセンス」「一般常識」「インテリアセンス」の4項目のみ。未婚男性との共通項はありません。「価値観」「一般常識」の違いを感じ始めてきたのは結婚後のことなのでしょうか。

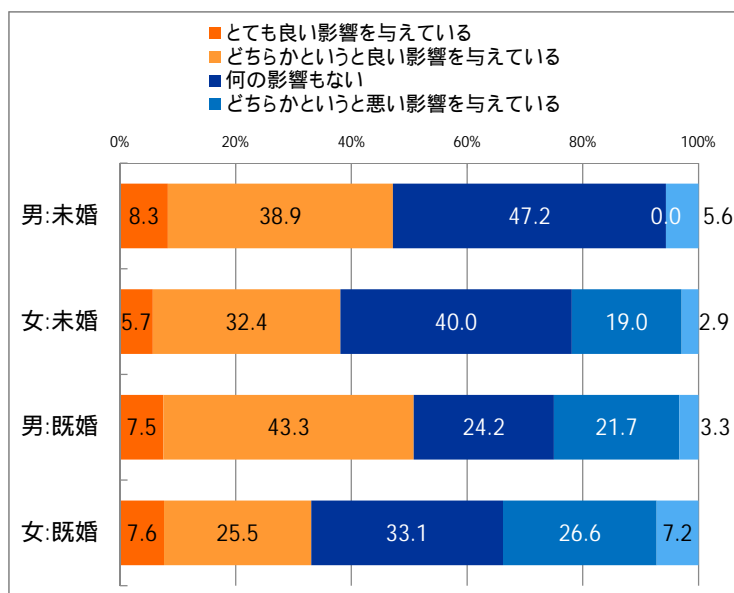
また、男女の意識の違いは「特に違いはない」の結果にはっきりと見ることができます。男性は女性よりも「違いはない」と思っており、中でも未婚男性は既婚男性よりもそう強く思っています。

Q.「違いがある」と回答した人にうかがいます。それらの違いは、あなたの生活に影響を与えていますか？



その違いは、少なからず生活に影響があるのでしょうか？

「良い影響」は39.2%、「影響なし」が33.4%、「悪い影響」が22.1%となっています。

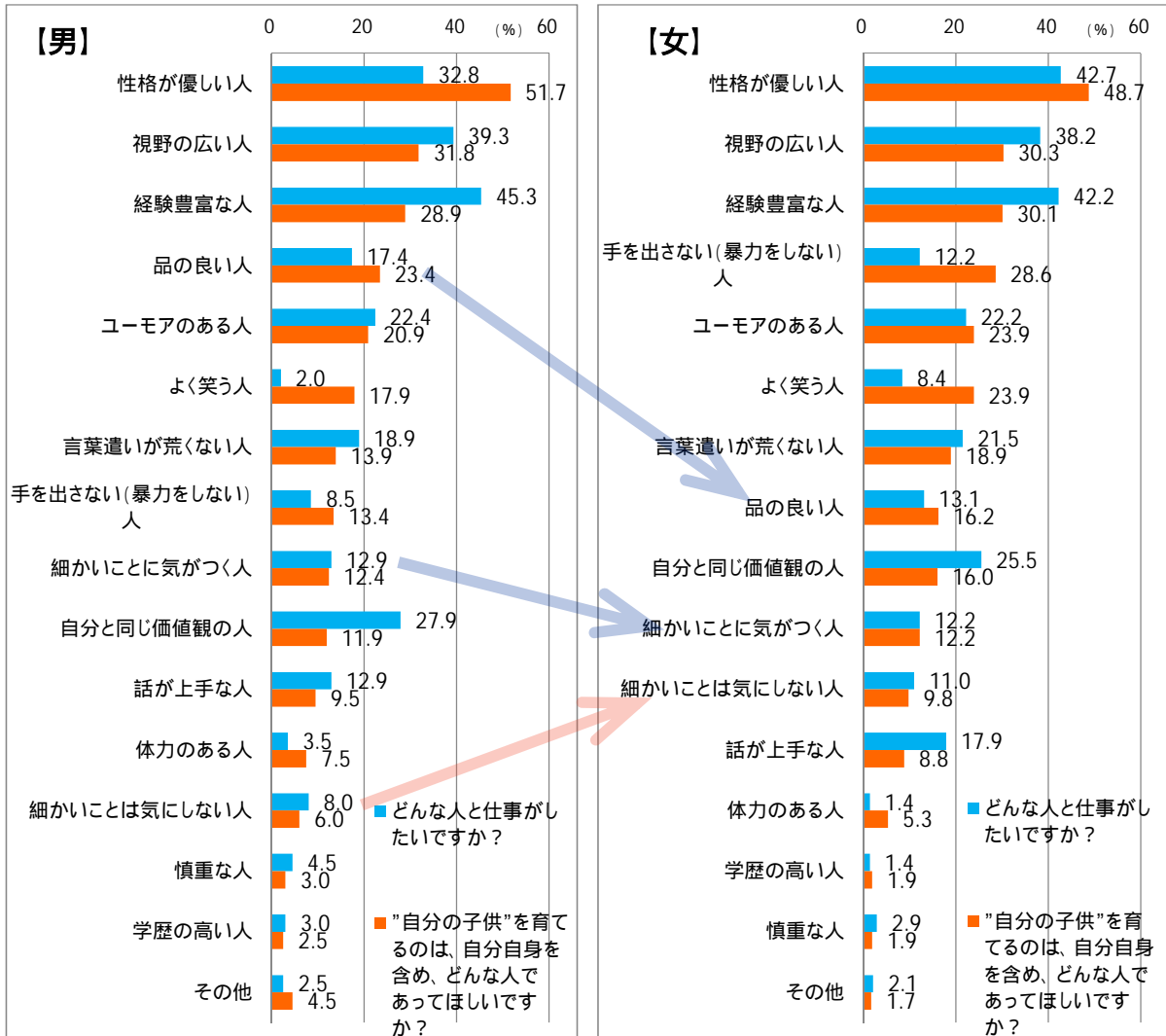


表、図の値は、四捨五入による集計上の誤差が生じることがあります。

## 差異の受け入れ～公私の区別

Q. どんな人と仕事がしたいですか？(3つ以内)

Q. "自分の子供"を育てるのは、自分自身を含め、どんな人であってほしいですか？  
配偶者や保育士などに、どんな要素を求めますか？(3つ以内)



仕事で望む人物像、家庭で望む人物像は違うのでしょうか。どちらも人生の大半を過ごす場所であり、大切な人間関係が存在し、育てるという共通点があります。

グラフは"子育てしてほしい人"に望む資質を基軸に並べています。男女の上位結果を比べると、1位～3位の順位は同じ、それぞれのポイントも近く、大きな男女差は見られません。ただ、そんな中で1点だけ差があるのが、仕事における「性格の優しい人」の希望具合です。男性は仕事上では女性ほど「性格の優しい人」を望んでいません。

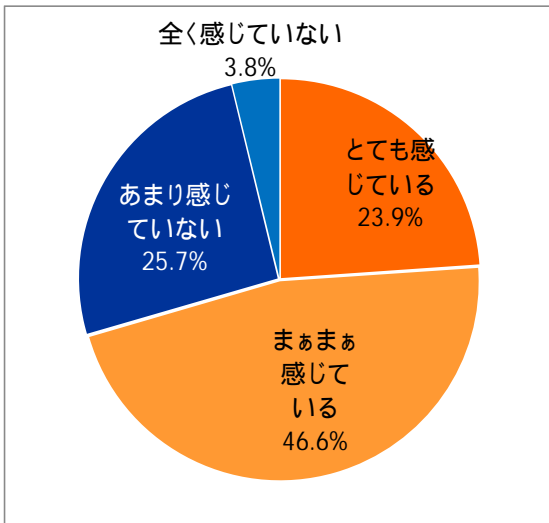
また、仕事上で望む人物像について男女差がよく出ていたのは、男性は女性よりも「品の良い人」「細かいことに気がつく人」を望み、女性は男性よりも「よく笑う人」「細かいことは気にしない人」を望んでいるという点です。やや正反対の人物像を望んでおり、不調和が生まれそうです。

そして、男性のほうが仕事と家庭の区別、公私の区別が強めです。男性は仕事と家庭を別の世界、と考える傾向があるかもしれません。会社(社会)と家庭は繋がらないのか？あえて分けているのでしょうか。科学的にはそのほうが健康なのでしょう。一方の女性は、仕事は家庭の延長、生活の一部、と考えている感があります。家事や育児は、確実に社会的な行為ではありません。

多様性を受け入れようとするとき、公私をどこで区切るのか、ラインは曖昧がよいのか。範囲は広げるべきなのか、狭めたほうがよいのか。それぞれの考え・価値基準をよく理解する必要があります。

## ストレス

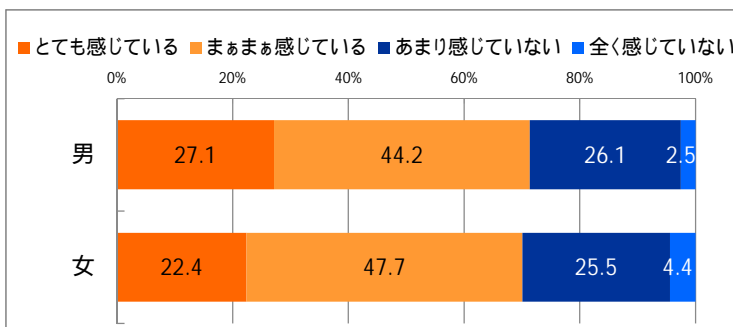
Q. 現在、ストレスを感じていますか？



7割が「ストレスを感じている」。

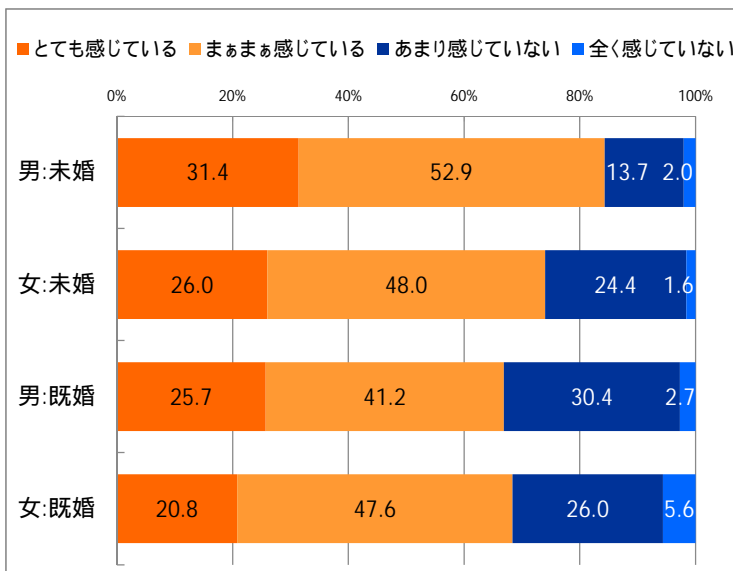
このような労働実態、労働意識、ワーク・ライフ・バランス、多くの差異が溢れる生活を送っている中で、ストレスはどの程度存在しているのでしょうか？

「とても感じている」人が23.9%、「まあまあ感じている」が46.6%、合わせると70.5%がストレスを感じていると回答しています。



男女別で見ると、男性のほうがストレスを多く感じています。

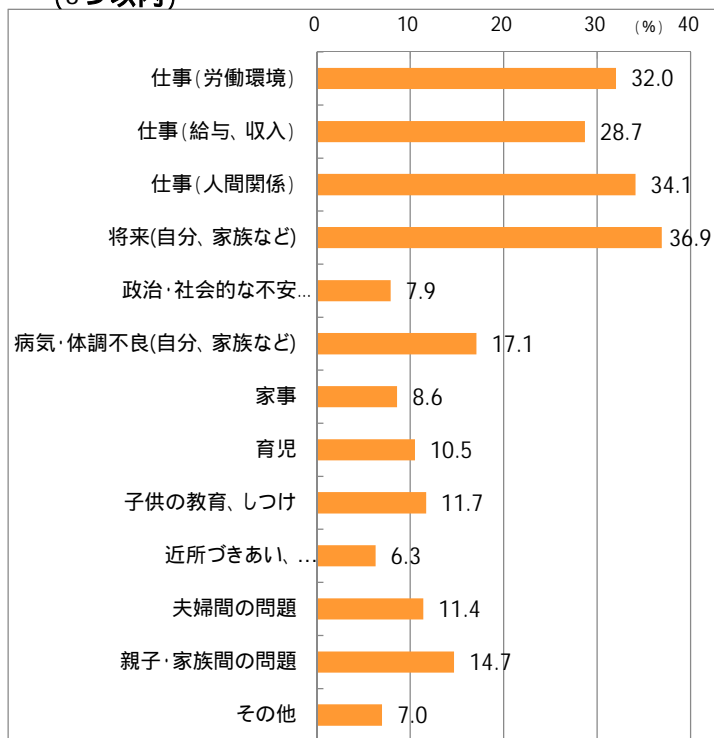
さらに未婚既婚別で分解すると、未婚男女のストレス度が高く、特に未婚男性のストレス度は際立って高くなっています。



表、図の値は、四捨五入による集計上の誤差が生じることがあります。



Q. そのストレスの原因は何ですか？何だと思えますか？  
(3つ以内)

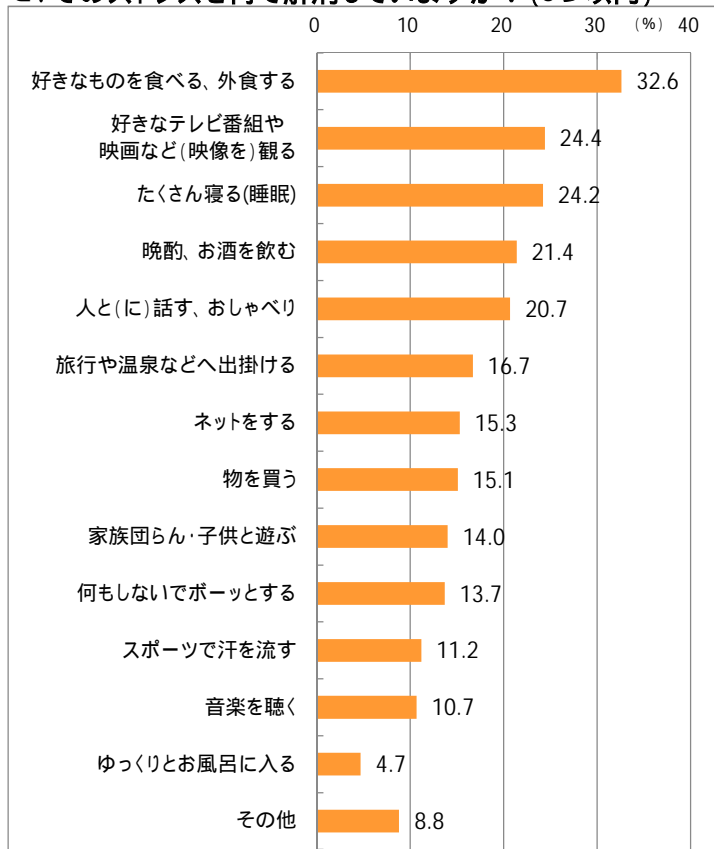


「ストレスを感じている」と回答した人にその原因をたずねたところ、最も多かったのは「将来(自分、家族など)」36.9%で、以下「仕事(人間関係)」34.1%、「仕事(労働環境)」32.0%、「仕事(給与、収入)」28.9%という結果が出ました。2位～4位は仕事関連が占めています。

上位4位に回答は集中しており、「将来」と「仕事」がストレスとなっていることがわかります。

それではそれらのストレスを何で解消しているのでしょうか。最も多かったのは「食」でした。次いで「映像系コンテンツ」「睡眠」「酒」「おしゃべり」。多くの人が解消できているようです。また、気付かぬうちに趣味で解消されていたということも多そうです。根本的な解決とはなっていないわけですが、容易に解決できない問題に対峙し続けるためには趣味の助けを利用するのも知恵なのかもしれません。

Q. そのストレスを何で解消していますか？(3つ以内)



発散方法 その他

楽器を触る(27歳 女 自営業) 解消法がない(30歳 女 専業主婦) 誰とも合わない(34歳 女 その他職) 何をしても解消できない(35歳 女 会社員) ドライブ(36歳 女 パートタイム) 考えない(39歳 男 会社員) ゲーム(40歳 男 会社員) 講演など人の話を聞きに行く(43歳 男 会社員) 猫と遊ぶ(44歳 女 パートタイム) 解消できない時もある(46歳 男 公務員) 仕事で忘れるよう努力(49歳 男 会社員) 読書(50歳 女 パートタイム) 絵を描く(51歳 女 専業主婦) 解消できていない(52歳 女 パートタイム) 釣り(55歳 男 経営者・役員) ためている(56歳 女 専業主婦) 楽器演奏(58歳 男 経営者・役員) 自分の中で抑えつけて、とりあえずやり過ごす(65歳 女 専業主婦)

この件に関するお問い合わせ先  
協同組合岡山情報文化研究所 / 原内  
〒700-0824 岡山市北区内山下1-3-1  
電話:086-225-8181

<http://www.vis-a-vis.co.jp/bunka/data/contact/>